

巻頭言

この小冊子は、研究室のメンバー向けにまとめた、研究室の年間記録です。今号は、2007年1月から2008年度末までの記録としました。この期間を振り返ると、一期生の4年生が新しくメンバーとなりました。メンバー募集に当たっては、「互いに研鑽しつつ、良い協力のできる研究室」を作る、という方針を最初に説明しています。現在のところ、研究上の議論も盛り上がる、風通しの良い雰囲気と思います。組織の風土は、主宰者の考え方にも依存しますし、もちろん個々人の意識にもよります。これからも、良い協力のもと、良い研究を目指すこととしましょう。研究室の立ち上げから1年半が過ぎましたが、新しい研究の芽も開花しつつあります。特許出願も行いました。一方、私自身は講義の立ち上げのために毎週相当の時間が割かれました。その分、研究論文が出ていませんが、次年度はぜひ盛り返したいところです。

この冊子には、修論要旨、卒業研究要旨、学会要旨、などをまとめてあります。メンバーは、自分が要旨をまとめる際、ぜひ参考にしてください。過去の冊子も研究室にあります。それらを見ると、今のテーマにつながる歴史的流れがわかります。この意味でも参考になると思います。

巻末には、セミナー資料などがあります。「ノート術セミナー」をはじめ、種々の企画を実施しました。各人の将来に役立つことを祈っています。研究室では、研究自体は勿論ですが、プレゼンや文章構成にも力を入れています。社会人となってからも、ますます役立つ事柄だからです。良いプレゼンには重要なコツがあります。良い文章は、良い論理構成に基づきます。これらは、私自身が苦労して体得した事柄です。こうしたことも、研究室ではメンバーに伝えようと思います。こうした意識は、上述のセミナーで来学くださった先生方の、学生に対する熱意ある講義に触発されてのことです。

ちょうど年度末で、卒論、修論発表が終わった時期です。改訂やリハーサルが連続し、負担だったかもしれません。この時期には、各自の1年間の進歩を振り返ることも有意義でしょう。

(2009年3月 持田)